

健康のしおり

皆さんの健康のお役に立つように、このようなパンフレットをつくりました。
是非ご覧ください。

港南区医師会

横浜市港南区港南中央通7-29
電話842-8806

港南区医師会休日急患診療所

診療日 日・祭・年末年始
診療時間 午前10時～午後4時まで
電話 842-8806

ところ 鎌倉街道 バス停 吉原
横浜市港南スポーツセンター前

内痔核

内痔核は、はじめは痛みを伴わない排便時の出血等を自覚することが多い良性疾患ですが、大腸がんなどの悪性疾患との鑑別が必要なため、自己診断せず医療機関への受診が肝要であることをまず強調しておきます。

(概念) 内痔核とは、肛門より約2cmの歯状線よりも奥の直腸下端の組織が膨れたもので、発生頻度は4.4%、年齢は45～65歳がピークと推定されています。

(分類) 症状により1～4度まで分類されています。

1度—肛門の外側への脱出なく、自覚するのは、排便時の出血です。

2度—怒責にて肛門外に露出、自然に肛門内に戻ります。

3度—2度より脱出しやすくなり排便後に押し込んで戻す必要があり、日常生活に支障をきたします。

4度—さらに痔核が膨隆し肛門の外で戻らない状態です。

(管理、治療) 1度～2度；軟膏や坐薬にて保存的に経過をみることが多いです。日常生活では、肛門の血のめぐりの悪くなることを避けることが大事です。便秘、下痢、排便時間の長いこと、いきみが強いこと、長時間の座ったまま、立ったまま、などに注意しましょう。タバコもよくありません。

また、アルコール、辛子などの摂取は肛門の刺激になるといわれています。

3度～4度；保存療法あるいは手術療法の適応となります。非保存療法には従来から行われている痔核結紮切除術を基本として、他にも治療法はあります。治療法の選択には、患者さんの年齢、ADL(日常生活でどのような動作をしているか)、生活様式、仕事などを総合的に考える必要があり、主治医との話し合いが重要となります。